

2018-19年度ライオン誌日本語版委員会 第11回会議 報告書

日 時：2019年5月9日(木) 13:30～16:00

場 所：一般社団法人 日本ライオンズ 事務所

出席者：国際理事 佐藤 義雄 (長野県・戸倉上山田ライオンズクラブ)
国際理事 安澤 莊一 (福島県・白河小峰ライオンズクラブ)
委員長 矢野 敏明 (336複合地区／島根県・松江葵ライオンズクラブ)
編集長 稲岡 敬弘 (332複合地区／秋田ライオンズクラブ)
委員 渡辺 和廣 (330複合地区／山梨県・甲府シティ ライオンズクラブ)
委員 渡邊 信也 (333複合地区／新潟県・亀田ライオンズクラブ)
委員 西川 恒彦 (334複合地区／静岡県・富士宮ライオンズクラブ)
委員 神 崎 守 (335複合地区／京都やわたライオンズクラブ)
委員 椿 幸 雄 (337複合地区／熊本火の国ライオンズクラブ)
一般社団法人専務理事 高橋 克文 (千葉県・船橋翼ライオンズクラブ)
ITアドバイザー 莊 英 隆 (東京恵比寿ライオンズクラブ)
欠席者：委員 渡 辺 修 (331複合地区／北海道・美唄ライオンズクラブ)



矢野委員長の開会あいさつに続いて、佐藤、安澤両国際理事からあいさつと国際関係報告があった。佐藤国際理事から、アイスランド国際理事会で国際協会の赤字削減策が検討され、その一環として2020年7月からライオン誌公式版に対する補助金を現行の会員1人当たり年間4ドルから2ドルに減らし、印刷版の発行義務を年4回から2回とする決定がなされたこと、また年間発行回数は各公式版の自己資金で増やすことが出来るとの報告があった。これに関連し安澤国際理事から、日本ではデジタル化に対応出来ない会員が多いと見られ、自己資金により印刷版の発行回数を維持することを含め、どのような方式を取るか慎重に検討する必要があるとの助言があった。日本ライオンズ高橋専務理事のあいさつの後、矢野委員長、稲岡編集長の進行で議事に入った。

【議事】

1. ライオン誌日本語版の運営 (別紙-月次決算報告)

2019年3月度の収支計算書を基に会計担当者から説明があった。3月は通常通りの運営で、印刷版の発行がなかったため月次では380万円の黒字、累計では9,208,651円の収支差額が出ていることが説明された。※一般社団法人理事会旅費や借室料など、年度末精算の予算額を差し引いた収支は約600万円の黒字。

●2018-19年度決算予想及び2019-20年度予算案

一般社団法人日本ライオンズに提出するライオン誌日本語版委員会の2018-19年度決算予想及び2019-20年度予算案を検討し、これを承認した。

●国際協会補助金2ドル減額対応

公式版の国際協会補助金が2020年7月から2ドルに減額される決定を受け、2020～2030年に

この10年間と同じペースで会員の減少が続くと仮定し、2ドルで印刷版を年2回、ウェブマガジンを年12回発行する場合の収支予測シミュレーションを検討。その上で矢野委員長から補助金減額後の選択肢として、①年2回発行とし、補助金2ドルの予算で可能なページ数とし、その範囲内で必要最小限の小冊子あるいは半期分ウェブマガジンの総集編とするなど内容を大幅に見直す、②年4回発行に必要な自己資金を確保し四季報として内容を変更、③年6回に必要な自己資金を確保して現行通りの内容とする、の3パターンが考えられるとし、各委員から意見を聞いた。各委員は、現状ではデジタル化に対応していない会員が多く、ウェブ版の利用は限定的であり、公式版としての役割を果たすには印刷版の役割が重要であるとの認識で一致。発行回数については、デジタル化を推進する国際協会の方針と補助金減額を受けて4回に減らすこともやむを得ないとの意見と、過去に積み立てた剰余金を活用するなど自己資金を確保して可能な限り6回発行を維持すべきとの意見に分かれた。誌面の内容については、現在の質を維持すべきとの意見が大勢を占めた。次回委員会で更に検討し、今年度委員会としての考えをまとめる。

2. 本誌関係

●2019年5・6月号（4月19日発行／92,200部）出来

5・6月号の出来について検討した。前回委員会で指摘のあった点を修正して発行したことが報告された。

●2019年7・8月号（6月20日発行）台割案

特集は「私の考えるライオンズクラブ」（神崎委員提案）で、本誌で募集した同テーマの応募作の内容を踏まえ、「ライオンズの魅力」をテーマに稲岡編集長、矢野委員長、330複合地区渡辺委員の鼎談を行った。各委員が所属クラブや近隣のクラブの協力で集めたアンケートの集計結果も交えて、鼎談の内容を記事にまとめる。表紙はライオンズの魅力を表現する写真のコラージュで構成し、過去の取材でカメラマンが撮影した写真3点を使用する。「国際理事だより：安澤荘一国際理事」、「編集室：神崎守委員」、「地区ガバナー紹介」。

3. ウェブマガジン関係

●2019年5月号（5月1日更新）出来

5月1日更新のウェブマガジン5月号の出来を確認した。神崎委員から、定型的な記事が多く、もっと読者の興味をかきたてる面白みのある記事にする工夫がほしいとの指摘があった。稲岡編集長からは、ウェブマガジンの比重が高まっていくことを見据えて、現在のコンテンツやデザインに更に検討を加えていくことも必要との指摘があった。

●2019年6月号以降台割案

6月号から8月号の主要コンテンツについて、内容と取材経費が提出され、承認された。

4. 主要記事予定

●2018-19年度主要記事予定

現在までに決まっている主要記事予定を確認した。

●2019年4月取材経費

4月に実施した取材の旅費及び外注費の経費一覧が提出され、確認をした。

●2019年5～2019年7月取材経費概算

5月から7月にかけての取材経費概算が提出され、承認した。

5. その他

●EMMR切断時の対応

荘ITアドバイザーから、国際本部の主導により進行中のサバンナとEMMRの切断について現状報告があった。

- ・サバンナとEMMRの切断は2019年11月に実施することとし、クラブがスムーズに移行出来るように、10月に国際本部がセミナーを開催する予定
- ・サバンナの活用状況は地区によって異なるものの、一般社団法人日本ライオンズが行っている賛助会費、複合地区費、地区費の請求業務や、ライオン誌の送付には現状ではサバンナの使用が不可欠で、当面は全地区でサバンナの使用を継続することが望ましい
- ・国際本部としては、各クラブはMyLCIのみで会員の入退会報告を行い、サバンナでの独自の報告は中止してほしい意向である。そのため、国際本部はMyLCIに報告された会員データをサバンナに取り込めるように提供する
- ・日本ライオンズが代行している請求業務のうち、複合地区費、地区費の加減調整は、切断後は算出が不可能になり行えなくなる
- ・サバンナのサーバー代は現在ライオン誌が負担している。EMMR切断後の費用負担をどうするか検討が必要

以上の報告を受け、サバンナのサーバー代については、当面はライオン誌発送に必要な経費として引き続き負担すべきと判断。EMMR切断後の請求業務については、日本ライオンズと各複合地区、地区で早急に対応策を検討して頂く必要がある。

閉会あいさつ 矢野敏明委員長

【次回以降委員会開催予定】

6月7日(金) 13:30~16:00 第12回会議 日本ライオンズ事務所